

# 視察報告書

京都府福知山市

令和8年8月5日(水)



京都府福知山市議会議場にて

松阪市議会 議会改革特別委員会作業部会

令和8年8月10日

松阪市議会

議長 濱口 高志様

報告者 深田 龍

標記の件について、下記の通り報告いたします。

## 記

「予算決算の審議について」・・・(京都府福知山市)

1. 日 程 令和8年8月5日(水)13:30～15:00

2. 目 的 議会改革特別委員会作業部会行政視察:

3. 会 場 福知山市役所議会会議室

4. 参加者 議会改革特別委員会作業部会

・深田龍部会長・吉川篤博副部会長・山本芳敬部員・小野建二部員

・海住恒幸部員・西口真理部員・久松倫生部員

5. 担当者 京都府福知山市議会議員

・議会改革検討会議 委員長 高橋正樹 様

・議会運営委員会 委員長 吉見純男 様

・議会改革検討会議 副委員長・議会運営委員会 副委員長 田中法男 様

6. 内容

1)福知山市の概要

○福知山市は、昭和12年4月に京都府で2番目の市として誕生。平成18年に、福知山市・三和町・夜久野町・大江町の1市3町が合併し、新しい「福知山市」となった。京都市からは60km、大阪市からは70kmの距離にあり、国道9号をはじめとする多くの国道や舞鶴若狭自動車道、JR山陰本線・福知山線および京都丹後鉄道宮福線などが通る北近畿の交通の要衝となっています。昭和61年、広峯古墳群(古墳時代)から出土した盤龍鏡は、当時の大勢力圏の出雲・丹後と畿内との接点に当たる福知山地方が交通・文化などの重要な位置を占めてい

たことをうかがわせる。天正 7(1579)年、織田信長の命で丹波を平定した明智光秀は、砦跡を利用して福知山城を築き、以来、福知山は城下町として栄え、明治末期までに大阪、京都へとそれぞれ鉄道が開通し、商都として発展してきました。市制制定後は、内陸工業団地として日本有数の長田野工業団地の完成・操業、また鉄道の電化・高速化を進めてきました。平成 18 年 1 月 1 日には、三和町、夜久野町、大江町と合併し、新しい福知山市がスタートし、人口 73,498 人。面積 552.54 平方 km である。

## 2) 福知山市への質問事項(●)と福知山市の説明事項(○)

- 予算、決算の審議における本会議の役割について
- 予算決算の委員会を常任委員会としたことの狙い、今後の課題。
- 予算・決算の審査の進め方
- 予算審査委員会のグループ別質疑とその後の日程。「自由討議」について。
- 市議会から市長へ政策提言書の提出について。
- 議会機能の強化について。
- 議会改革の継続性について。
- 議員研修の充実について
- 議会基本条例の検証について

○ 議会運営体制と役職構成について、委員会構成は、議会運営委員会と議会改革検討会議は同一メンバーで構成され、委員長のみが異なる体制。副委員長は両委員会でも同一人物が継続する。役職選任については、議長・副議長・監査委員・各委員長が所信表明を行い、その後に各議員が所属会派を決定。その後、各委員会で副委員長の所信表明と選任が行われる。

○ 予算決算委員会の常任委員会化について、地方自治法改正により複数委員会への所属が可能になったことを背景に、通年・継続審査が必要な予算・決算を扱うため、特別委員会から常任委員会へ以降。これにより、政策提言や予算執行の循環的な審査が可能となった。委員会は全議員で構成されるため、会派代表者会議が協議機関の役割を担う。

○ 予算・決算審査のプロセスと質疑応答について、審査の基本方針は委員会中心の審査を優先し、本会議は採決・討論が中心。委員長報告への質疑はほとんどない。分割付託による修正・動議の弊害を避けるため、全体の共通認識で運用する。

○ 本会議での質疑について、予算案は委員会付託前に本会議で質疑枠を設ける運用だが、過去 5～8 年での実施は令和 5 年に 1 回のみ。本会議の形骸化を避けるため、3 月定例会では一般質問で施政方針や予算編成方針について質問可能としている。

○ 一般質問への移行について、以前の会派代表による代表質問(1 人 1 時間)から改革され、予算決算委員会で総括質疑をした議員以外は、本会議で一般質問(1 人 40 分、質疑応答含む)を実施できる。

○ グループ別質疑について、所管に基づき 3 グループに分け、10～12 日の連続日程で実施。全議員(議長除く、決算時は監査委員も除く)が同席可能。質問者は手挙げ方式で募り、抽選で順番を決定する。

○ 総括質疑は、常任委員会での審査論点に基づき、各会派代表が部門横断的な課題や重大論点について質疑を行う。

○ 時間と人数について、以前は会派人数に応じた持ち時間だったが、現在は「1 人 40 分」に統一。

○ 内容調整は、委員長が事前申入書を審査し、重複や一般質問のような内容には是正を求める。議長団も不適切な質問には指導を行う。新人議員には難易度が高いという課題も認識されている。

○議案修正・附帯決議について、近年は議案の修正提案はほとんどなく、附帯決議を付すことが中心。組み替え動議は過去に事例があるが、最近では委員会や会派提案で対応している。自由討議から政策提言へのプロセス、位置づけ、予算決算審査における審査、総括質疑に続くプロセスとして実施される。

○テーマ提出は、総括質疑の前に各会派からテーマが提出される。テーマは必ずしも総括質疑と関連せず、決算審査内容や社会問題から選ばれることもある。

○討議は、提出会派による説明後、各委員から賛否両論を含む意見が出される。

○政策提言への移行の決定は、自由討議後、代表者会議で政策提言化するかを決定する。

○内容調整は、提言化が決まると、正副委員長と議会事務局が否定的な意見も踏まえて原案を修正する。令和 6 年度は 4 テーマ全てが採択されたが、内容は当初案から大幅に変更された(例:「森林林業 DX 活用」の追加)。

○合意形成について、修正案は会派に持ち帰り協議された後、代表者会議で合意。その後、委員会全体会で最終的な賛否を確認し合意を得る。

○提出と意見交換については、合意された提言は執行部へ提出され、後日意見交換会を実施。次年度予算への反映を促す重要な場と位置づけられている。

○提出形式と主体について、予算の場合は「意見提言」、決算の場合は「政策提言」となる。委員会、会派、個人から提出可能だが、実質的には予算決算委員会からの提出が多い。

○政策提言の審査・検証と議会改革の審査フローについて、委員会からの提言案は、議会改革検討会議で形式審査を経て議長に提出される。その後、議会政策検討会議で提案委員長が説明し、過半数の賛成で執行部への提出が正式決定する。

○政策提言(予算決算委員会)は、過半数で可決。政策検討会議は、全会一致を原則とする。議員提案権があるため、より意思統一された提案を目指す。

○提言の検証サイクルは、予算決算委員会では、次年度予算への反映状況を予算委員会での質疑を通じて検証し、サイクルが機能している。常任委員会では、明確な検証サイクルが確率されておらず、委員が一般質問で進捗を確認する形が課題。

○提言時期の変更は、執行部の予算編成に間に合わせるため、決算提言の提出時期を翌年 1～2 月から 10 月中に前倒した。

○議会改革の継続性については、議会基本条例を基盤とし、研修で得た優良事例を委員会で具体化することで改革を継続。任期交代による継続性の課題には、新任議員への当初研修や日常運営での習得で対応。

○議員研修と各種条例・計画と議員研修についての予算を「年間研修費」として「23 万 3 千円」を計上。内容は、議長会助成金事業、大学連携研修、市民病院との研修会、広報講習など多様な研修を継続実施。

○行政視察報告は、市予算・政務活動費による視察双方の、議会での報告会が義務付けられている。

○議会 BCP(災害対応計画)を 5～6 年かけて策定し、令和 7 年 4 月から運用開始。行政に先行して議会独自で作成し、年 2 回程度の訓練を実施。

○倫理条例は、平成 5～6 年度に「整理倫理条例」を議会主導で策定。17 の条件を設定。

○議会基本条例の検証は、平成 23～24 年に制定。4 年に 1 回の検証を申し合わせ、令和元年度に初回、令和 2～4 年度を対象に第 2 回検証を実施済み。

○委員会活動は、議会基本条例制定後、委員会の開催回数は平成 15 年の年間 151 回から、近年は 220～240 回程度に増加。

○議会モニター制度について、広報広聴委員会が公立大学の学生と協力し、SNS 等を活用した若者視点の議会広報を作成。

## 7. まとめと松阪市への示唆

○福知山市議会議員は、24名(1名欠員)中、1期生9名、2期生4名と期数の若い議員が過半数を占めている議会である。新人議員との合意形成について、経験年数に関わらずフラットな議論で合意形成が行われている。松阪市議会でも、今後、市議会から市長へ政策提言書の提出に向けて、予算、決算の審議における本会議・分科会・委員会の役割や審査の進め方、質疑や議員間討議などの見直しを進めていく必要があると感じた。具体的には、決算議会での政策提言の取りまとめと意見交換の実施、執行部からの政策提言反映状況資料の提出・審査、各常任委員会の年間活動計画(調査事項、政策提言テーマ含む)の策定・合意、議会基本条例の検証スケジュールの確認・周知、行政視察研修報告会の開催、提案書や自由討議のフォーマットの作成、倫理条例の周知・研修実施など、やるべき課題を一つずつ解決していかなければならないと感じた。

## 8. 所感

「議会改革度ランキング 2025」で政策力の強化部門で3位になった福知山市議会を訪問。視察目的は、予算と決算議会における自由討議から生まれる政策提言の取組みの運営方法や成果を学ぶことであった。会派の意見を、自由討議を経て提案・調整することが特徴的であった。また、その成果として、政策提言に盛り込んだ事業などがその後どうなったのか予算額ベースでフォローしている点は学ぶべき点であった。

他方、委員会や個人からも政策提言ができるように、「政策検討会議」をつくられていて、こちらは全会一致になった時のみ提言できる要件となっているため、これまで提言に至ったことはないということだった。この点については、今年2月に視察した四日市市議会さんとは大きく違う点であり、松阪市議会にとって、どちらの仕組みを作っていくか意見が分かれる点であったと感じる。



質問中の風景

以上